

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市袋原たんぼぼホーム
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台はげみの会
3	指定期間	平成29年4月1日から令和3年3月31日まで（4年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成30年度 2,300人（前年度比 56%） ・平成29年度 4,144人（前年度比126%） ・平成28年度 3,280人（前年度比105%）
		《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 61,189千円（55,763千円） ・その他市が負担した費用 3,408千円（2,750千円） 《収入》 ・使用料収入 28,922千円（42,551千円） ・その他収入 0千円（ 0千円）
		（ ）は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 ・平成31年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施した。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営に当たっている。 保護者を対象とした研修会の開催など、親子共に成長できるような利用者本位の施設運営を図っている。また、近隣の子育て支援機関などを始めとした地域との連携も積極的に行っている。	42/42
II	施設の運営管理体制	施設の運営管理については、事業計画に基づいた運営がなされている。 情報管理の徹底に努めており、事故防止や災害発生時の対応体制は確立している。また、災害発生時の対応について、近隣保育所等とネットワークを構築している。	24/24
III	施設・設備の維持管理	施設、設備は適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 環境への配慮としては、施設全体で積極的な取り組みを進めている。	24/24
IV	サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、職員会議・研修等により人材育成を図るとともに情報共有に努め職員全体でのサービス向上を目指している。 保護者等に対してパンフレットを用いて説明するなど、わかりやすく、細やかな情報提供を心掛けている。	27/27
V	施設固有の基準	個別支援計画を詳細に作成し、課題と取組み・振り返り評価を行い利用者個々の発達に寄り添った支援を行っている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%; text-align: center;">加点評価</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">—</td> </tr> </table>		加点評価	—
加点評価	—		

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台はげみの会）による自己評価》	
<p><発達支援について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス毎に視覚的、物理的構造化の下、個々の特性に応じた分かりやすい環境設定、活動提供をすることで、情緒の安定や自発的な行動を引き出すことができた。 ・個別活動では、個々の強みや苦手さを保護者と共有し、対応等を一緒に考える時間となり好評を得ている。 ・看護師資格所持者、理学療法士、心理士、保育士が連携し、支援の必要性の高い子どもに対してより専門的な療育を行えるよう努めた。 <p><家族支援について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解を深める勉強会を定期的に行い、子どもへの対応、進路等について一緒に考えた。 ・家庭状況に応じて単独通園、一時預かりを年間通して実施したことで、子どもの成長や保護者の情緒の安定につながった。 ・きょうだい児デイキャンプも継続して行い、好評を得ている。 <p><地域支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路先の幼稚園、保育所への引継ぎ等の移行支援を行うとともに、地域の児童館、保健センター等にも定期的に訪問することで、卒園児だけでなく地域からホームへの見学や支援の手立てとなる相談等も増え、連携を深める取り組みができた。 ・隣接保育園子育て支援センターと個別の相談会を設け、心理士によるアドバイスやアーチルの相談につなぐ等、コーディネート機能の充実に努めた。 	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成30年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われていた。児童の状況に応じたきめ細かい療育の実現を図り、特性にあわせた支援を行うための工夫も様々なされている。当該年度は、地域の関係機関への定期的な訪問等、引き続き地域相談体制の強化に向けた取り組みを実施した。</p> <p>保護者勉強会やきょうだい児支援行事の定期開催等、児童だけでなく家族を含めての利用者処遇の向上に努めている。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課